

F-34 洋裁用作業台の高さに関する研究 (第2報)

杉野女大 O三宅栄子 お茶の水女大 吉田夫美子 東京学芸大 大森和子

目的 本研究は、第26回日本家政学会総会で報告した第1報につづけて行なったものである。第1報では、洋裁における製図や裁断等の至適高さと知すため、被検者に各種の高さで作業を行なわせ、最もやりやすいと感じる高さを求め、別に女役階の高さの作業台で作業を行なわせたときのエネルギー代謝率から至適高さを求めた。更に製図の際に使用される三角筋、上腕二頭筋等の筋電回をとり、至適高とその他の高さにおける筋の活動状態をみた。第2報は、下肢や軀幹部の筋も同時測定をして、至適高さを求めようとするものである。

方法 洋裁の製図、裁断等の作業の場合によく使われる上肢の筋(三角筋、僧帽筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋)4か所と軀幹および下肢の筋(直立筋、大腿二頭筋、大腿四頭筋、前脛骨筋、腓腹筋)の5か所、計9か所について、表面電極法による同時測定を行なって、高さの異なる台上的製図作業における筋の活動状態をみた。被検者は、成人女子5名である。

結果 測定した筋を、上肢、軀幹、下肢に分けてみると、上肢の筋は作業台の高さが高くなるにしたがって活動が大きくなり、軀幹および下肢の筋は、上肢と反対に、作業台の高さが高くなるにしたがって活動が小さくなる。測定した筋全体をみると、作業台の高さが71~81cmのときに筋活動が小さくなり、この高さの範囲が作業に適していると考えられる。